



ミンガラバー

認定 NPO 法人
 日本・ミャンマー
 医療人育成支援協会
 〒700-0815
 岡山市北区野田屋町2-4-18
 TEL: 086-224-0102
 FAX: 086-221-2554
 URL: http://www.mjcp.or.jp



予算規模 約3千万円に 活動拡大で増える

総会 事業計画承認

協会の収支状況や新しい活動方針を報告する総会が7月30日夕、岡山市中区の岡山プラザホテルであった。2016年度(16年7月-17年6月)の事業内容と決算書、17年度(17年7月-18年6月)の事業計画、予算がそれぞれ承認された。

17年度の予算は一般、特別両会計を合わせて約2千880万円。活動が拡大してきたのに伴って、予算規模も大きく膨らんだ。ただ、一般会計の予備費として計上している375万円は予定外の出費がない限り18年度へ繰り越す。17年度に取り組む主な事業は、従来通りミャンマーでの医学研究大会やシンポジウムに出席し、現地での手術指導も実施。乳がん、子宮がん検診センターの支援、口腔がん検診を引き続き行う。医師ら医療従事者を招いての研修では、とくに医療工学士の育成に重点をおく。ミャンマーでは新しい医療機器の導入が遅れており、医療機器の操作やメンテナンスにあたる医療工学士の教育が行われていないからだ。「あかね基金」による准助産師育成事業は4年目になる。半年間の研修を終えた准助産師になった人の中には、さらに勉強して正式な看護師・助産師になりたいという希望者もあり、何らかの支援を検討する。このほか、岡山大学と協力してミャンマーの医科、



刺激を受けました 岡山大で3週間

ヤンゴンの医学生12人が、岡山大学医学部の授業を受けた。ミャンマーでは行われていない自主性重視の授業形式で学び、最近の設備や技術にも触れた3週間。「教育方法や考え方、文化の違いがよくわかった」という学生もいて、有意義な体験をしたようだ。この授業参加は岡山大がミャンマーとの学生交流の一環として4月に実施。協会と岡山県医師会が旅費や生活費などを支援した。昨年に続いて2度目の試み。

招かれたのはヤンゴン第一医科大と同第二医科大の3年生で、それぞれ6人。岡山大学津島キャンパスの中にある国際交流会館に泊まって、鹿田キャンパスに通い、医学部3年生の「基礎病態演習」に加わった。この授業は病気の基礎的な仕組みについて学ぶもので、7、8人ずつのグループに分かれて学習し、討論発表し合うユニークな形式。すべて英語で行うグループもあり、ミャンマーの学生はこの班に振り分けられた。

これらのグループ学習とは別に、医療教育開発センターでシミュレーションによる採血、救急、内視鏡、超音波などを体験研修。基礎教室で試験管やピペットを使った研究体験もした。ミャンマーではこのような実践的教育を受けることがないだけに、学生たちは興味深そうだった。また、病院見学ではロボット手術などの最新技術などに目を見張っていた。

3週間の授業を終え、12人全員に大塚愛二医学部長から修了証明書が授与された。この授業計画を中心として進めた木股敬裕教授(形成外科II協会理事)、竹居孝二教授(生化学)によると、ミャンマーの学生たちの感想は「このプログラムは素晴らしい。岡山を去るのが寂しい」「日本の学生に刺激をうけた。友達になれてよかった」。また「もしチャンスがあれば、岡山大に戻って研究したい」と話す学生もいたという。

2017年度予算

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
繰越金	5,114,048	8,625,563	前年度より繰越
会費・入会金	1,850,000	0	会費170人、入会金10人、賛助会費10人、役員運営協力金20人
寄付金	5,000,000	5,000,000	一般寄付金、運営協力費
助成金	3,000,000	0	永山積善会、滋谷育英会、その他
雑収入	200,000	0	預金利子、協賛金等
合計	15,164,048	13,625,563	
[収入の部]			
費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
事業費	7,500,000	8,000,000	一般会計 ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業5,000,000 公的機関と協力して支援する事業200,000 ミャンマーにおける医療実践を支援する事業1,500,000 組織活動の公表に関する事業800,000 特別会計 あかね基金活動費4,000,000、MAJA-岡山、水害援助、クリニック寄付4,000,000
会議費	700,000	0	総会懇親会・役員会等
旅費	1,000,000	0	出張旅費
光熱水費	200,000	0	電気、ガス、水道代等
通信運搬費	400,000	0	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	300,000	0	事務用品
印刷費	30,000	0	総会資料等印刷代
諸謝費	50,000	0	講演等謝礼
負担金支出	5,000	0	岡山県国際団体協議会等負担金
支払手数料	30,000	0	郵便振替手数料等
委託料	450,000	0	会計事務委託、決算書作成委託料
賃貸契約料	750,000	0	賃貸契約に基づく固定資産税
予備費	3,749,048	5,625,563	
合計	15,164,048	13,625,563	
[支出の部]			

歯科、看護大学の学生との交流を進める。協会の呼びかけに応じて会員らによるクリニックの寄付はこれまで

で17か所にのぼっているが、さらに増やすため寄贈を呼びかける。総会には約50人が出席。

議決を一任する委任状が170人から寄せられた。総会のあと懇親会が催され、岡山大学医学、工学部の

の大学院で学ぶミャンマーの留学生10人を招待。留学生は1人ずつ勉強の内容や日本の印象などを話した。

山の村に小学校

シヤンダヤ

地球元氣塾 贈る

ミャンマーのほぼ中央の山岳地帯にある小さな村に、協会を通じて、NPO法人「地球元氣塾」(東京)が小学校を寄付した。7月18日に贈呈式があった。

ピンダヤ洞窟で知られるシヤン州ピンダヤのチャウス村は少数民族タヌウ族が暮らす。小学校がないため、子供たちは険しい山道伝いに隣村の小学校に通っていた。往復に約3時間かかり、入学をあきらめる子もいた。

120人学ぼう

この村にはピンダヤ県病院のタンミントット院長の努力で最近、電気が通じ、井

理事長が祝辞

戸も掘られたばかり。そこに同院長の力添えもあって、待望の小学校ができ、めでたいこと続き。柱に大屋根がのったばかりの建築中の校舎で催された贈呈式には、10月からここで勉強する子供約120人と村長ら大勢の村人が集まり、祝賀ムードに包まれた。

生活環境問題などに取り組む地球元氣塾から大津山八郎会長、和田まり子理事長、山梨克彦監事の3人が出席した。協会の岡田茂理事長、ミャンマー国民健康財団のタンセイイン理事長も

同席。岡田理事長は祝辞のなかで子供たちに「ここで学び、勉強が好きになったら、将来、日本にきてもっと勉強してください」と呼びかけた。

地球元氣塾は、協会の呼びかけに応じた寄付クリニックの1つの「八田特別クリニック」(故八田武志さんが寄付)が15年2月にヤンゴン郊外にできたとき、診療ベッドや薬棚、机、ロッカーなどを贈っている。

チャウス村の近くにあり、やはり小学校のなかったコンザウン村には16年秋、協会の西山央子理事長が学校を寄付している。この一帯にはまだ小学校のない村が約20カ所あるという。



贈呈式には10月からここで学ぶ子供たちと村人が出席した。チャウス村

ヤンゴン総合病院レユモン医師 岡山大学病院研修記



顕微鏡を前にレユモン医師岡山大学形成外科

私は岡山大学病院形成外科で、今年4月まで半年間、研修しました。顕微鏡を覗きながら細い血管を吻合するマイクロ手術の技術を習得するためです。

最初はシリコンチューブと鳥の羽の血管をつなぎ、次にラットを使つての基礎的な訓練でした。動物を扱っ

マイクロ手術の技を学ぶ

ての研修はミャンマーにはなくて、動物が死ぬのを見るのは悲しかった。しかし、先生たちは大変辛抱強く指導して下さい、研修はスムーズに進みました。

実際に手術に参加した時はどんなに嬉しかったことか。壊れたり、切り取られたりした臓器を新しく作り直す再建手術と、そのためのマイクロ手術を実際に学んでいるのだ、と感じたからです。

私が助手を務めた時の手術は肉体的にきつかったが、疲れたとか、消耗したとかいう気持ちは忘れ、ただただ執刀医の技術の高さ

を奪われました。研修の合間、東京と広島で開催の形成外科学会に出席。会議の用語は日本語でしたが、同行の先生が親切に翻訳して下さい、ビデオ発表や症例写真などで勉強ができました。銀座や東京タワー、デイズニラランドなどに案内してもらいました。広島では原爆ドームに平和と歴史を感じました。大阪での講習会の後、京都や奈良へ。また鳥取の皆生温泉に入ったのも忘れ難い思い出です。

半年間の研修は、私の将来にとってとても有用な経験であり、私が手に入れた技術により、ミャンマーの患者さんがとても得をすると思えます。

編集後記

年に何度もミャンマーに出かける岡田理事長からは、帰るなりいつも電話があります。「うまくいったよ」「喜んでもらった」と、まず医療支援の成果などの話です。ところがこの7月は、このことは後回しで、いきなり「岡山は暑いなあ」でした。熱帯の彼の地はこの時期、日中は40度を超え、しかも雨季の真っ只中のはず。「それが毎日、スクールの後は涼しくなると、過ごしやすい」とのことでした。そのころ、定年後バリ島に移り住んだかつての仕事仲間から電話。「今、日本に帰っているが暑さは半端じゃないね。日本の夏はもう長逗留できないどころか、帰るところではないな。彼は早々に、赤道直下に近い南の島へ戻ってゆきました。今号がお手元に届くとき少しでも暑さが和らいでいればいいのですが…。でも、夏の疲れがどっと出るころでもあります。皆様、どうぞ自愛切に。(西崎)

◆レユモン医師の旅費や在費は永山積善会から協会への寄付が充てられた。同会は永山久夫岡山プラザホテル社長(協会理事)が代表を務め、協会の活動にと毎年、150万円寄せている。

協会発足当初からの理事で岡山大学名誉教授(免疫学)の中山睿一さんが7月20日、亡くなった。73歳だった。岡山大学退職後、川崎医療福祉大学教授を務めた。

中山理事、死去

横野学長は前岡山大学病院長で、何度もミャンマーへ。写真集「黄金に輝く仏教徒の国ミャンマー」を出版、また協会のミシガラバート集号「活動の10年」に多数の写真を提供している。

ASEANシンポジウム

東南アジア諸国連合(ASEAN)の「乳がんシンポジウム」が7月14-16日、ヤンゴンで開かれ、岡田茂協会理事長と岡山大学病院形成外科の木股敬裕教授(協会理事)、渡部聡子医師の3人が招かれ出席した。

東南アジアでは乳がんが女性死亡率のトップという国が多く、早期発見、早期治療が大きなテーマになっている。乳がん手術後の乳房再建は岡山大形成外科の技術が国際的にも高く評価されており、シンポでの渡部医師の発表が各国から参加者の注目を集めた。

以下は発表内容などについての報告です。

乳房再建手術について発表



シンポの合間に=ヤンゴン

私の発表のテーマは「アジア人における自家組織移植による乳房再建の戦略」でした。自家組織とは自分自身の腹部の脂肪や背中の筋肉のことです。

岡山大学形成外科は微小血管吻合術による再建を得意としています。欧米人と比較して、アジア人は一般的に痩せており、採取できる組織量に限りがあります。このため、1本の血管で血流量が不足する場合は、さらにもう1本の血管を吻合することで、採取した組織を最大限利用するようにします。つまり、微小血管吻

岡山大学病院 形成外科医師 渡部 聡子

合術を駆使することで状況に応じた乳房再建が可能になる、というのが発表の内容でした。

発表に先立って開催されたワークショップの討論会にも私は参加しました。ASEAN各国についても様々で、経済状況や社会保険制度がそれぞれ違っていることが話題になり、ここでも状況に応じた医療の提供が必要とされていることを実感しました。

最終日にはヤンゴンから車で何時間もかかる秘境の地のゴールデンロック(巡礼地)を訪れました。7月は雨期で、険しい坂道を登るのは現地の人もためらうほどでしたが、不思議とその日は晴れ間ものぞき、雲海に浮かぶ黄金の岩を参拝することができました。

初めてのミャンマーでしたが、素晴らしい経験をすることができ、関係者の方々に感謝致します。

協会だより

活動資金に50万円

岡山大学長から

活動資金にあててほしいと岡山大学の横野博史学長が50万円を寄せた。今春、学長に就任した際に大勢のひとから祝福された、そのお礼の気持ちという。